

2012年秋季連続セミナーのご案内

「民主党政権下における 労働・社会保障政策の検証」

主催 NPO法人あったかサポート
場所 ひとまち交流館京都（予定）

「この秋には解散総選挙が」と巷間ささやかれています。ほぼ3年間の民主党政権下における労働・社会保障に係る政策を検証します。

現実には社会保障の必要性を国民の大半が認めながらもその財源をどこに求めるのか、国民的議論は進まないまま消費税の導入が進められようとしています。「税と社会保障の一体化」を進める前提には、所得税を含めた所得の再分配機能を税や社会保険にどのように求めるのか、この国をどのような国家理念で運営していくのかに基づいて決めるべきです。ところが、政権与党を含めて国民的議論は避けられたままの状態です。消費税だけが一人歩きしています。「自助自立」を強調し、「自己責任原則」による『小さな政府』か、全てを国家財政に求める『公助』の『大きな政府』に求めるのか、それとは異なるもう一つの選択肢があっても良いのではないだろうか、そうした問題意識から労働・社会保障政策のあり方について検証を試みたいと思います。

第1回

「労働者保護立法の検証―派遣や有期雇用規制を問う」

非正規と正規労働者の格差改善は喫緊の課題である。新たな派遣労働への規制は派遣労働者の待遇改善に繋がるのか、また雇用の機会は拡大されるのか、法に

よる規制のあり方を検討します。また、

期間の定めのない労働者と異なる有期雇用の労働者への保護政策は判例法理を反映し、労働契約法の改正にどのような影響を与えるのだろうかを考えます。

講師 中島 光孝（大阪弁護士会所属）

10月13日（土）午後6時15分～8時15分



第2回

「パート労働者の社会保険適用をめぐる歴史と課題」

社会保険から排除される労働者の差別的根拠はどこにあり、それは正当なのかを検証する。

厚生年金や健康保険など社会保険適用をめぐる1週30時間という4分の3要件は、法律に基づくものではないにも関わらず一人歩きするようになったのはどういふ時代背景があったのだろうか。社会保険に於ける社会的排除のあり様と社会



的包摂の課題を問うことにします。

講師 川崎航史郎（龍谷大学非常勤講師）
11月17日（土）午後6時15分～8時15分

第3回

「雇用と福祉の連携はどこまで進んだか」

2008年のリーマンショックを経て、これまで内閣府が試行してきたパーソナル・サポートサービス事業は、派遣切りで仕事を失った人たちにとどまらず、一般労働市場への参加が困難な人たちへの就労支援事業として開始された。雇用の場を失い、社会参加できる機会を失った人たちに対する雇用と福祉の連携への挑戦であった。国の政策課題であるにも関わらず、支配しつつある「自立・自助」の思想に対し、私どのような思想で対峙し、何ができるのかを考えます。

講師 五石敬路（大阪市立大学准教授）
12月8日（土）午後6時15分～8時15分

